

# 宗岡中だより



11月号 平成29年11月1日(水)  
志木市上宗岡1-8-1 TEL 048-471-2241

## 「秋雨や 高水敷の 水引かず」

校長 佐藤哲浩

10月中旬から下旬にかけ、台風の影響で秋雨前線が活発化し連日雨続きでしたが、台風が過ぎ去り久しぶりに太陽が顔を出しました。これほど長く秋雨前線が日本列島に居座ったのも珍しいかもしれません。私が住んでいる朝霞市でも、台風が通過する深夜に黒目川が氾濫する危険性が高まり、一部の地域に避難勧告が発令されました。寝ている最中に防災無線放送が入ったため、何もできない私は、これ以上雨が降らないことを願うだけでした。翌日、出勤や出張時に柳瀬川や黒目川を通ると、河川の高水敷の上まで水が満たしており驚くばかりでした。11月はスポーツの秋、食欲の秋にふさわしい秋晴れが続いてほしいと思っています。

話は変わって、10月19日、20日に全日本中学校長会東京大会に参加してきました。今年は戦後の新制中学校教育（学校教育法施行）が始まり70年の記念大会であり、東京国際フォーラムで盛大に開催されました。最終日の記念講演は、一昨年ノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智理学博士のご講演「私の半生を振り返って」でした。講演内容は専門の難しい研究内容ではなく、自分が学生の時に受けた教育や教師や研究者としてどのように関わってきたかをわかりやすく講演していただきました。



大村先生は大学卒業後、東京都の墨田工業高校の定時制の教員として着任します。墨田工業では理科と体育の授業を受け持つ傍ら、卓球部の顧問としても東京都で準優勝した実績があります。昼間に働き、夜に定時制に通って学ぶ生徒の姿を見て、大村氏自身も学び直しを決意します。教員として働きながら学び、修士課程を修了、その後大学の研究所の助手として働き、北里研究所に研究員として採用されます。北里大学薬学部の教授を経て、米国メルク社との共同研究によって開発したイベルメクチンは2億人ものアフリカの熱帯病、リンパ系フィラリア症の患者を救うことになるのです。

ご講演では、自分の生い立ちや学生時代、教員・研究者としてのご経験を踏まえ、多くの人と出会う中で、人とのつながりを大切にしてきたこと、人材育成を軸とする社会貢献に尽力されてきたこと、また教育・研究面で日本を取り巻く現状や今後のあるべき姿をご教示されました。そして最後には、「研究一筋の生活を支えてくれた伴侶へ感謝していることと、研究推進・一期一会・健康管理を大切にしてきたことが私の半生です。」と締めくくられました。大村先生の人となりを感じることができ、心が暖められた講演会でした。